

大学共同利用研のミッションと 新たなる挑戦



「次世代を担う若手研究者共同研究ネットワークの構築 ——分子研共同利用装置・大型計算機を軸とした 分野横断型研究の新展開——」

平成18年度機構長裁量経費ならびに分子研所長裁量経費の補助を頂き、上記企画を分子研ならびに岡崎コンファレンスセンターにおいて平成19年1月22日(月)から24日(水)に開催いたしましたので、ご報告を兼ねて紹介いたします。

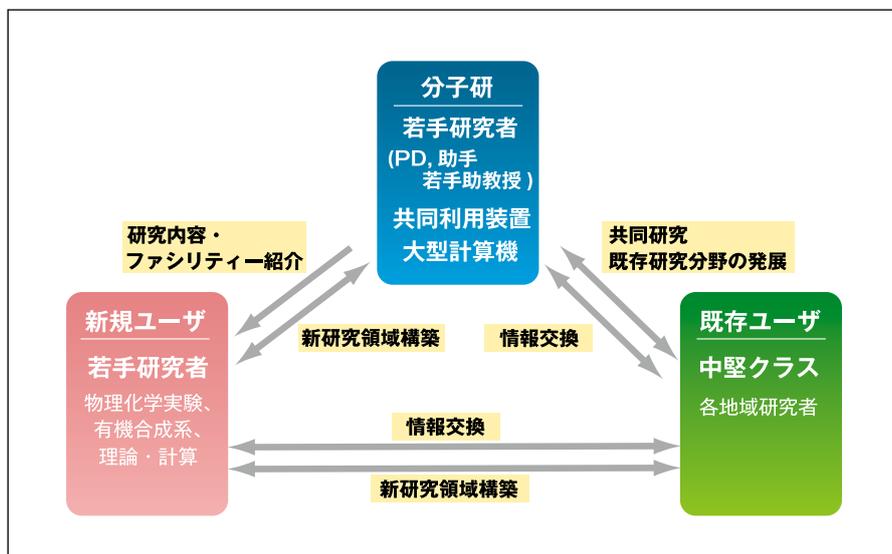
報告：物質分子科学研究領域 准教授 中村敏和

企画の意図と目標

本企画では、異分野の若手研究者と実際に分子研と協力研究を行っている所外の中堅クラス研究者が一堂に会しじっくりとした有意義な交流を行うような従来にない研究会を通じて、科学研究の本来のあるべき姿を改めて深く認識しあい、また次世代の新研究領域の展開を行うことを目標としました。大学共同利用機関である分子科学研究所がその中心的役割を担い、全参加者が一堂に会することで、次世代の新領域創成への礎となる事を意図しています。

企画の内容・報告

この企画への参加者として若手研究者ならびに実際に分子研と協力研究の実績がある所外の中堅クラス研究者を各グループから各1名を目処に推薦していただきました。若手の研究者に



は元気のいい人を、既存ユーザーには、単なる成果発表ではなく若手研究者への研究展開への情報提供やエンカレッジを期待できる講演をお願いできる人を推薦していただきました。若手と既存ユーザーがおおよそ同人数となるよ

うに招聘を行いました。「若手」とは広くとらえ、20代後半～40代前半までのPD・助手・助教授・若手教授を招聘しました。

初日は、外部若手研究者向けに分子研内の各研究グループの共同利用装置

紹介・UVSOR等の施設紹介（研究者向け冬のオープンハウス）を行いました。共同研究専門委員会委員長の田中教授から、共同利用研究の紹介が行われ、その後、中村が具体的な説明を行いました。所内の自由見学の後、夜には若手間のパネルディスカッションを行いました。このパネルディスカッションに先立ち、中村宏樹所長からあらためて共同利用研としての分子研の紹介が若手向けに行われました。パネルディスカッションでは、若手からの分子研や研究環境に対する要望など自由討論を行いました。

2日目は、共同研究を念頭に置いた相互理解のため、所内・所外の若手研究者17名による講演会を行いました。夜には、若手研究者とこれまで協力研究や施設利用を活用してきた所外の中堅クラス研究者一堂に会し、パネルディスカッションを行いました。特に中堅研究者からは、この厳しい研究環境だからこそ、分子研に主導的な立場を維持して欲しいというエールとも思われるコメントが多数ありました。

3日目は、具体的な協力研究例により、分子研内外の相互連携で広域型研究展開の可能性について考えてもらうため、既に分子研との共同研究を行っている11名の研究者に実施例としての成果を

講演していただき、その後一堂に会して共同研究の可能性について討論を行いました。合わせて、中村から共同利用研究のガイドライン等の変更点をお知らせすると共に、既存ユーザーから共同利用研究への要望を伺いました。

当日は、所外から約50名、所内から約100名の参加がありました。準備時間が短かったこと、1月の多忙時期での開催であり、また「共同利用」をうたったこれまでに無いタイプの研究会であったため、正直大入り盛況とまではいきませんでした。しかしながら、各研究グループから熱心に声を掛けていただいたおかげで、実り多きものになったと思います。異分野・多数の機関の研究者の交流が行われ、次世代の新領域創成への礎となる有意義なものになったことを切に期待しています。

本企画は、所外の研究者に対して分子研の周知・理解を図ったものでありますが、期せずして分子研内部の研究者に「共同利用研としての分子研」の意識が深まる契機になったと感じています。このこと自体が、本企画の一番大きな収穫であったようにも思います。

企画に合わせて

講演要旨の他に、「分子研共同利用パンフレット」を作成しました。この

「分子研共同利用パンフレット」は、各研究グループならびに施設の共同利用研究ファシリティー（ハード・ソフト）を掲載し、協力研究の手引きとなるよう作成いたしました。このパンフレットには新領域・新部門名で記載し、各機関への平成19年度後期の共同利用公募の案内送付の際に同梱していただきました。各研究グループにおける共同利用研究のポテンシャル紹介になればと期待しています。短期間で作成する必要があったため皆様にはご迷惑をお掛けいたしました。またすべての研究グループを網羅できなかったことをお詫びいたします。

今回のオープンハウスに備えて、各研究グループの研究紹介のパネル作成していただきました。また、明大寺地区のパネルレーンの要望も多かったため、予算や準備期間の問題もあり必ずしもご希望にはすべては応えられませんでした。各研究グループ1スパン程度設置致しました。これらのパネル等は、春のオープンハウスや所外からの研究者来訪の際に活用いただければ幸いです。

終わりに

所内の皆様、特に下記ワーキンググループの方々には、大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます（敬称略：所属は当時）。米満賢治（理論分子）、小澤岳昌（分子構造）、佃達哉（電子構造・ナノ）、中村敏和（分子集団+相関）、見附孝一郎（極端紫外光研究系）、森田明弘（計算分子）、川口博之（錯体）、永田央・櫻井英博（ナノセンター）、繁政英治（極端紫外光研究施設）、山中孝弥（レーザーセンター）、鈴木光一（装置開発室）、藤井浩（統合バイオ）、加藤清則（技術課）、原田美幸・中村理枝（広報室）、多田奈緒・太田明代（事務支援）。

